

完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 滋賀県大津市京町四丁目1番1号  
管理機関(代表の機関)名 滋賀県教育委員会  
代表者名 福永 忠克

令和3年度マイスター・ハイスクール事業に係る完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年6月30日(契約締結日)～ 令和4年3月31日

2 管理機関

①管理機関(市区町村・都道府県)

ふりがな	ひこねし
管理機関名	彦根市
代表者職名	市長
代表者職名	和田 裕行

②管理機関(産業界) ※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな	ひこねしょうこうかいぎしょ
管理機関名	彦根商工会議所
代表者職名	会頭
代表者氏名	小出 英樹

③管理機関(学校設置者)

ふりがな	しがけんきょういくいいんかい
管理機関名	滋賀県教育委員会
代表者職名	教育長
代表者職名	福永 忠克

3 指定校名

学校名 滋賀県立彦根工業高等学校

学校長名 大久保 貴生

4 事業名

変化への挑戦(Challenge for Change)

～進取の気性を生かし持続可能な新たな地域産業を共創できる技術人財の育成～

5 事業概要

伝統技術等のビッグデータ分析など ICT・デジタル教育で連携を図りながら、社会的課題を新たなチャンスととらえ、高付加価値を持つ産業へと創出できる“人財”を多様な主体の共創により育成するシステムを構想する。

絶えず革新し続ける最先端技術と滋賀の風土が培ってきた伝統産業等の技と心を生かし、地域産業界と彦根工業高校が一体・同期化し、郷土愛にあふれた人財育成によって地域を活性化させ、ICT&歴史都市という未来像の実現に資するもの。

6 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している
- ・教育課程の特例の活用 活用していない

7 意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
和田 裕行	彦根市・市長
小出 英樹	彦根商工会議所・会頭
位田 隆一	滋賀大学・学長
廣川 能嗣	滋賀県立大学・学長
福永 忠克	滋賀県教育委員会・教育長
大久保 貴生	滋賀県立彦根工業高等学校・校長

8 事業推進機関の体制（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
青木 政義	(株)SCREEN ホールディングス
橋岡 由男	(株)清水合金製作所
志賀谷 光弘	彦根商工会議所・専務理事
稲野 善行	彦根市産業部・次長
山根 浩二	滋賀県立大学・副学長
飯田 朋子	滋賀県商工観光労働部モノづくり振興課・課長
横井 正弘	滋賀県教育委員会事務局高校教育課・課長
大久保 貴生	滋賀県立彦根工業高等学校長・校長

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
文化祭発表 SDGs 市役所にて指導 (彦根市)							○					
マイスターキャンプ 避難所訓練指導 (彦根市)									○			

長期インターンシップ 受入部門探し (彦根市)											←	→	
プログレス実習 受入部門探し (彦根市)											←	→	
広報誌掲載による広報 (彦根商工会議所)						○ CEO						○ 産業実務家教員	
ブラッシュアップ 実習 講師仲介 (彦根商工会議所)						○ 建設科講師							
長期インターンシップ 候補先企業探し (彦根商工会議所)											←	→	
プログレス実習 候補先企業探し (彦根商工会議所)											←	→	
カンパニー制 アイデア募集 (彦根商工会議所)											○		
運営委員会、事業推 進委員会 主催 (滋賀県教育委員会)			○	事業推	進委員会	7/21			○	事業推	進委員会	1/26	◎
			◎	運営委	員会	7/29					◎	運営委	員会
													◎

## (2) 実績の説明

### ア 彦根市

彦根市からは、本事業の推進にあたり多方面にわたり多大なるご支援・ご協力をいただき深謝いたします。具体的な内容は以下の通り。

#### (ア) SDGs に関する取組指導

学校設定科目「近江マイスター」の取り組みの一環として、生徒が SDGs について学ぶために彦根市役所や市施設を訪問し、SDGs 17 の目標に対応する各部署にお話しを伺った。各部署の担当者様から彦根市の取り組みについて生徒の目線に立ち、わかりやすく説明していただき、生徒は真剣な様子で話を聞く姿が見られた。また質問がしやすいよう声かけをしていただいた。

#### (イ) マイスターキャンプ 避難所訓練指導

防災教育を通じて、マイスター・ハイスクール事業におけるリーダー養成を目指すマイスターキャンプを12月17日、18日の2日に渡り開催した。彦根市危機管理課の指導の下、避難所の開設や運営の訓練を行い、また避難所での寝食を体験できた。

#### (ウ) 長期インターンシップ 受入部門探し

令和4年度の2年生において計画している長期インターンシップ(10日間)の生徒受け入れを要請し、彦根市にて受入れ可能な部門を探していただいた。

#### (エ) プログレス実習 受入部門探し

令和5年度の3年生において計画している学校設定科目「プログレス実習」の「デュアルシステム」を令和4年度に彦根市にて試行実施させていただきたく生徒受け入れを要請し、彦根市にて受入れ可能な部門を探していただいた。

### イ 彦根商工会議所

彦根商工会議所からは、本事業の推進にあたり多方面にわたり多大なるご支援・ご

協力をいただき深謝いたします。具体的な内容は以下の通り。

(ア) 広報誌掲載による広報

彦根商工会議所通信「不易流行」の令和3年年10月1日号ならびに令和4年3月1日号において、マイスター・ハイスクール事業を特集記事として本事業の概要や今年度の進捗状況、令和4年度の計画などについて大きく取り上げていただいた。本通信は、彦根商工会議所会員のみならず滋賀県彦根市内の公共機関窓口にも広く配布され、本事業を公開・普及する貴重な媒体となった。

(イ) ブラッシュアップ実習 講師仲介

令和4年度の2年生において計画している学校設定科目「ブラッシュアップ実習」で建設科講師をご紹介いただき、令和4年度は講師として指導いただく計画である。

(ウ) 長期インターンシップ 候補先企業探し

令和4年度の2年生において計画している長期インターンシップ(10日間)の生徒受け入れ先候補企業探しを要請し、会議所経由で複数の会員企業から受入れ可能との返事をいただいた。

(エ) プロGRESS実習 候補先企業探し

令和5年度の3年生において計画している学校設定科目「PROGRESS実習」の「デュアルシステム」を令和4年度に試行実施したく生徒受け入れ可能な候補先企業探しをしていただいた。

(オ) カンパニー制アイデア募集

有志生徒がチームで「バーチャルカンパニー」を設立し、ものづくりを通して社会課題を解決していくという起業疑似体験を行う計画をしている。彦根商工会議所青年部の会員企業には「バーチャルカンパニー」にて商品企画をする際のヒントを生徒に提供したく、SDGsに関わるニーズについてのアンケートにご協力いただいた。

ウ 滋賀県教育委員会

(ア) 運営委員会、事業推進委員会の開催

運営委員会を年2回開催し、すべての事項の意思決定・統括を実施した。「マイスター・ハイスクールビジョン」の策定、マイスター・ハイスクールCEOおよび産業実務家教員の選任、事業推進機関の評価、等を行った。また、事業推進委員会を年2回開催し、「マイスター・ハイスクールビジョン」に基づき具体的な施策立案、大学や彦根市、産業界(彦根商工会議所)との連携、等を行った。

(イ) 文部科学省の代表窓口と指導

本事業における文部科学省の代表窓口となり、各種報告書類の指定校への作成依頼や指導、とりまとめを行った。

(ウ) 産業実務家教員への特別免許状付与

令和4年度から産業実務家教員による授業を開始するにあたり、特別免許状を付与し常勤の教諭として任用する準備を行った。



広報活動 HP 掲載、Genko 通信、 チラシ等														
指定校 中間成果報告会 (文部科学省主催)											○			
運営委員会 事業推進委員会				○ 事業推進委員会 7/21				事業推進委員会 1/26				◎		
				◎ 運営委員会 7/29										◎ 運営委員会 3/14

## (2) 実績の説明

### ア 学校設定科目「近江マイスター」

大学や企業から未来の産業社会や地元彦根の地場産業について学ぶ。また、ものづくりや SDGs の取組を通して自分の進む道を想像する。課題に対して新しい解決法を考える力、他者の意見に耳を傾けながら自ら深く考え、自身の言葉で表現できる力、いかなる集団においても望ましく円滑な人間関係を築く力を身に付ける。

#### (ア) 事前学習会

マイスター・ハイスクール事業を取り組むための事前学習として、CEO および産業実務家教員が所属する企業について、スマートフォンやタブレットを用いての調べ学習を行った。企業理念や製品、社会貢献活動などを調べることで、事業に協力していただく企業を理解することはもちろん、将来の就職活動のための企業調べのリハーサルとして行った。また、学校設定科目「近江マイスター」に取り組むにあたって授業の進め方や達成目標についての説明を各クラスにオンラインにて行った。最後には学びの記録アンケートとして、地域産業への理解度や工業専門分野への興味、本事業への期待度などについてのアンケートを Web 解答形式で行った。

#### (イ) 企業見学・大学見学

学校設定科目「近江マイスター」の初めての授業が行われた。予定では午前中に滋賀県立大学での講演、午後からは生徒の希望に合わせ、大学での講義、企業見学に分かれての学習であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により、校内で午前中だけのオンライン講演に変更した。初めに CEO および産業実務家教員からの「マイスター・ハイスクール事業を学ぶ意義」や「地元彦根の産業」、「社会人になるために大切なこと」などの講話を受けた。その後、滋賀県立大学工学部 山根浩二 教授から「未来のエネルギー」の題目でオンライン講演をいただいた。生徒からは「将来的に電気自動車と燃料電池車の割合はとなるとお考えですか」、「エコやエネルギーに関して先生が住んでみたいおすすめの国はどこですか」など積極的に質問があり、未来のエネルギーについて考える様子が見られた。

#### (ウ) SDGs についての学習会 (滋賀県立大学)

学校設定科目「近江マイスター」における SDGs の取り組みの一環として、滋賀県立大学の地域貢献プロジェクト「近江楽座」の フラワーエネルギー「なの・わり」、「あかりんちゅ」に所属される学生を講師に迎え、オンライン講演を行った。2つのプロジェクトチームの活動内容やその目的、SDGs とのつながりについて、わかりやすく講演をいただいた。

[生徒感想一部抜粋]

・とてもわかりやすく話してくださり、SDGs についても理解が深められたので有

意義なものになりました。

- ・バイオディーゼルが二酸化炭素の排出が少ない燃料と知り、地球温暖化対策にもつながると思いました。また、バイオディーゼルのデメリットについても教えてもらいとても理解できました。
- ・菜種油からバイオディーゼルが比較的簡単に抽出できることがわかり、驚きました。
- ・有限な資源を利用しない、循環型エネルギーについて知ることができました。
- ・ろうそくを再利用することで資源を無駄にしない上に、いろんな団体と協力しながら綺麗なイベントをされていて、とても工夫されていると思いました。
- ・楽しそうなろうそく作りの体験から環境についても深く考えられる素晴らしい取り組みだと思った。
- ・身近なことが SDGs につながることを知り、SDGs について考える良い機会になりました。

※ 「近江楽座」とは、滋賀県立大学の地域貢献をキーワードとする学生主体で運営するプロジェクトで、発足から16年間で延べ359プロジェクトが展開されている。今年度は20チームが活動されている。

#### (エ) SDGs についてヒアリング調査 (彦根市)

SDGs について身近な事象を学び、生徒各自が当事者として捉えるために彦根市役所や市施設を訪問し、SDGs 17の目標に対応される各部署にお話しを伺った。各部署の担当者様から彦根市の取り組みについて生徒の目線に立ち、わかりやすく説明していただき、生徒は真剣な様子で話を聞く姿が見られた。また生徒が質問しやすいようお声かけをしていただいた。

[生徒感想一部抜粋]

- ・今後は文化祭での SDGs 学習の発表に向けて、ヒアリングの内容から自分たちができることを考え、学習を深めながら取り組んで行きたいと思います。

#### (オ) 文化祭で SDGs 学習の発表

「近江マイスター」の活動として取り組んできた SDGs 学習のまとめを文化祭の展示作品として発表した。発表に至るまで滋賀県立大学の「近江楽座」のプロジェクトチームや、彦根市にご協力いただき SDGs についての学習に取り組んだ。学んだことや調べたことから自分たちができることをクラスごとの小集団(カンパニー)で話し合い、31枚のポスターにまとめた。

[生徒感想一部抜粋]

- ・今回の取り組みで SDGs につて改めて考える機会になりました。自分たちにできることを今よりもっと探し出して、実行していきたいです。

#### (カ) 「しがファクトリー」 しがのお仕事フォーラム

「近江マイスター」の時間を利用し、NHK 大津放送局の番組にある“滋賀県の工場の魅力を伝える「しがファクトリー」”の収録が本校体育館で行われた。ゲストにタレントとNPO法人カーボンシンク代表の中野栄美子さんを迎え、NHKキャスターの司会で本校代表生徒3名と株式会社コクヨ工業滋賀、株式会社SCREEN ビジネスエキスパート、株式会社清水合金製作所の3社に在籍される本校OBの社員の方とで座談会形式で進行された。本校生徒からの、企業が求める人材や仕事の魅力などの質問に企業の方も真剣に答えていただき、またゲストのお二方も会場を盛り上げながらうまく生徒の言葉を引き出してくださり、楽しみながら学ぶことがで

きた。

[生徒感想一部抜粋]

- ・"滋賀県らしさ"が沢山ありとても楽しく学べたと思います。タレントの方も来てくださってワクワクしながら聞きました。
- ・先輩方が取得された資格や取っておいた方がいい資格などが分かり、就職や進学に向けてよく考え役立てていきたいと思いました。
- ・企業の方になかなか聞けない採用基準などを聞いてよかったですと思います。

#### イ カンパニー制

少人数のグループで、ものづくりや社会に貢献できる企画を自分たちで企画し取組を進める。工業高校生の持つオリジナリティーを大切にしながら、経営者的な視点を持って未来の産業社会に携わるための力や企画力、オーナーシップを育てることを目標とする。じっくりと物事に取り組む原体験の場をたくさん作る。「防災かまどベンチ」、「断みつくん」に次ぐヒット商品の開発や社会を動かすような企画を発想することを目指す。

#### (ア) 県立大学等連携プロジェクト カーボンニュートラルを学ぶ

カンパニー制の取り組みとして、滋賀県立大学や企業との連携プロジェクト「カーボンニュートラルを学ぶ ～バイオ技術と工学技術を用いた環境循環型社会に向けた実験～」を行う。これは、微生物であるユーグレナを肥料とした培養土で育てた菜の花から菜種油を抽出する。菜種油は給食等で利用し、残った廃油からバイオディーゼルを精製し、燃料として発電機を稼働させ、イベント等の電力として活用する計画である。

##### ① カーボンニュートラルを学ぶ 説明会

夏休みに希望者を対象にプロジェクトの説明会を行った。はじめに、NPO法人カーボンシンク代表の中野栄美子さんから環境問題やSDGsについてやカーボンニュートラルの取り組みについてのお話をいただいた。次に滋賀県立大学工学部山根浩二 教授から本プロジェクトの概要をご説明いただいた。参加した生徒は本校の新たな取り組みについて熱心に話を聞く様子が見られた。

##### ② 菜の花の播種

菜種油を抽出するための菜の花の種を蒔いた。菜の花の成長差を調査するために、微生物であるユーグレナを混ぜた培養土と通常の培養土の2種類の土を準備し、生徒が協力してそれぞれ花壇とプランターに分けた。春にはたくさんの花を咲かせてくれることを期待している。

##### ③ バイオディーゼルの精製について研修会

東近江市の「あいとうエコプラザ菜の花館」で研修会を行った。「あいとうエコプラザ菜の花館」は、廃食油からバイオディーゼル燃料(BDF)を精製され、そこで作られた燃料を使って、プラザの発電燃料に使用するだけでなく、コミュニティーバスの燃料としても使用されており、全国各地からも取組を学びに来られる施設である。今回生徒は、回収された廃食油からバイオ燃料への精製過程の実験をさせていただき、実際にその燃料で発電機による発電を行った。また、菜種から油を搾油する体験もさせていただいた。生徒は終始楽しく体験を行い、廃食油とバイオ燃料に変化させる薬剤で分離し、加熱攪拌機を使用して、エステル交換反応により混ざり合うまでの過程を食いつくように見ていた。

#### (イ) カンパニーリーダー研修



カンパニー活動におけるリーダーの育成のために、滋賀大学経済学部企業経営学科 山下悠 准教授をお招きし、2日間のリーダー研修を行った。1日目は企画力をテーマに、小グループを形成してグループ内でヒーロー役と、インタビュアーに分かれてのヒアリング力育成の実習を行った。生徒はヒーロー役にインタビュアーとして評価されることを目指して取り組む様子が見られた。2日目はデザインシンキングをテーマに不満やイライラをグループで話し合い、それを解消する製品を現在の技術力を度外視して考える実習を行った。技術に囚われないことで自由な発想が生まれ、真剣な様子で製品を企画していた。最後には考えた製品について発表し、出された面白いアイデアに歓声が沸いていた。両日ともにCEOと産業実務家教員も生徒と同じグループに入り講義に参加した。生徒は緊張しながらも2人にインタビューし、企画について相談などを行った。

2日間にわたり山下准教授からは「やってみて、失敗をして、学ぶ」、「模範解答はない」ということを丁寧に話され、生徒はチャレンジする気持ちで取り組むことができた。実習がメインの講義であり、知識を教えるのではなく考え方を学ばせていただいた2日間になった。

〔生徒感想一部抜粋〕

- ・ヒーローが気持ちよくインタビューに答えられるように考えて質問することに苦労しましたが、評価してもらえてうれしかったです。
- ・企画力を高めるためには、『やってみて、失敗をして、学ぶ』の流れが大切だと学ぶことができました。
- ・失敗が大切な要素として取り上げられていることに新鮮さを感じました。

#### (ウ) ものづくり×SDGs (彦根商工会議所青年部)

彦根商工会議所青年部の協力で高校生のアイデアコンテストを開催する。現在、彦根商工会議所に加盟される企業に「ものづくり×SDGs」をテーマにアンケートを実施している。そのアンケート結果を基に、企業が求める商品について工業高校生視点のアイデアで商品化を目指す。

#### 【活動について】

- |        |  |
|--------|--|
| 1 活動形態 | カンパニー活動 (各グループ 最大8名程度)                       |
| 2 活動期間 | 令和4年3月7日(月)～ 放課後等 ※基本的に自主的な活動                |
| 3 発表形式 | 企画書・プレゼン動画                                   |
| 4 評価方法 | 彦根商工会議所青年部の方にアイデアを評価していただき、5月中旬に製品化について検討する。 |
| 5 報告会  | 彦根商工会議所青年部の例会(7月)にて報告の場を設ける計画である。            |

#### ウ マイスター防災キャンプ (彦根市)

防災教育を通じて、マイスター・ハイスクール事業におけるリーダー養成を目指すマイスターキャンプを2日間に渡り開催した。協力いただいた彦根市危機管理課の指導の下、避難所の開設や運営の訓練を行い、避難所での寝食を体験しながら、仲間や大人とじっくり語る時間を設定した。

避難所訓練では体育館でのパーテーションの設置や住居スペース、通路などの分けを行い、教員を避難者と見立てた受付や案内の訓練を行った。夕食には本校が取り組んでいる「かまどベンチ」での調理を体験するなど地域の避難所で自ら率先して行動できるように体験を行った。

「語る時間」では司会進行に中野栄美子さんをお迎えし、ゲストに本校OBで滋賀県教育委員の岡崎正彦さんにも参加していただいた。生徒は生まれてから今までの自分史を作って発表し、いつもと違う仲間と共有しながらお互いを認め合う時間になった。

今回の経験を生かし学校のリーダーとして成長し、将来は地域や職場で活躍してくれることを期待している。

[生徒感想一部抜粋]

- ・1番学んだことは人との繋がりについてだと思います。知らなかった運営側からの配慮、初めて会った人との会話や協力など学べることが多くありました。今回のことで親しくなれた先輩もおられ、とても充実した2日間でした。
- ・受付する際にいろんな人が避難されてきて、特に日本語が話せない外国人の方が避難してきたり、体調不良などコロナウイルスの感染が疑われる方が来られたり、本当にいろんな人が避難所に来られると感じました。
- ・地震大国であるからこそ、今回の経験を生かし災害の時に自分のことだけでなく、避難所の設営を手伝えるようになりたいです。そのためにまずは自分の命は自分で守ること、落ちているゴミに気づき、しっかり拾えるようにしたいです。

## エ 近隣大学との連携協定事業

### (ア) 連携協定の締結

滋賀大学並びにミシガン州立大学連合日本センターとの連携協定を締結した。滋賀大学との連携協定では、ものづくりのアイデア、マーケティングおよびデータ分析等において連携し、課題の掘り起こしやものづくりを通じて解決の糸口を探る想像力、創造力を育成し、地域を担う産業人としての人財を育成する教育システムを構築することを目指す。

ミシガン州立大学連合日本センターとの連携協定では、国際人としての資質を高めるため、外国人講師による基礎的な技術英語にかかるプレゼン力を学ぶとともに外国人労働者とのコミュニケーションに困らない日常会話力及び基本的な生活文化背景等を学ぶことを目指す。

### (イ) 英語授業

1年生の英語の授業にミシガン州立大学連合日本センターから先生をお招きし、授業を行った。次年度から開講する新しい選択英語授業に向けて、本校生徒が外国語への親しみを持てるように楽しみながら発言できるプログラムで展開された。

1年生建設科では、生徒がお互いに意見交換し、仲間を見つけてクラス内のグループ分けを行った。また、1年生電気科2組では、生徒一人一人がオリジナルの旗を作り、その過程で、生徒同士でお互いの旗について意見交換を行った。

## オ 長期インターンシップ

令和4年度に「長期インターンシップ」として、2年生に従来の3日間コースに加え、新たに5日間および10日間のコースを新設する計画をしており、その準備を進めた。具体的には、前年度までの実績を把握し、次年度方針を決定した。新設する5日間、10日間コースの候補先企業が圧倒的に少ないとの現状分析から彦根商工会議所、彦根市、業界団体と連携し、滋賀県湖東地域を中心とした産業界の協力を得るべく地道に候補先企業探しを進めた結果、ほぼ目処がつつある状況である。

また、次年度2年生への事前説明会において次年度のインターンシップ計画概要や実習先希望の一次調査などを行った。

#### カ ブラッシュアップ実習 設計、講師選定

令和4年度に学校設定科目として「ブラッシュアップ実習」を2年生に開設し、各クラス10名程度の選択希望者がより高い知識、技術を身につけさせる計画をしており、その準備を進めた。具体的には、授業内容検討、希望生徒募集および面談、実習班編成、臨時講師探しなど進め、令和4年度の年度当初から授業開始できる環境を整備した。

#### キ プロGRESS実習 設計、候補先選定

令和5年度の3年生において計画している学校設定科目「プロGRESS実習」の「デュアルシステム」を令和4年度に試行実施したく、その準備を進めた。具体的には、授業内容検討、生徒受入れ可能な候補先企業探しなど進め、令和4年度の年度当初から試行実施できる環境を整備した。

#### ク 危険予知活動(KYK) 教員研修 (株式会社 SCREEN ホールディングス)

「企業における危険予知活動(KYK)を活用した教え方、学び方の改革」に必要な教員の知識習得のため、株式会社 SCREEN ホールディングスの専門家から研修を実施していただいた。

令和4年度からは生徒に対して、「ものづくりの職場で行われる作業前打ち合わせでの手法を生かし、短時間で学ぶポイント、危険なポイント等要点を理解し、危険を避け、効果的な行動を実行する習慣作りを行う。」授業を実施する予定である。

#### ケ 広報活動

各種媒体を通じて積極的に研究成果の公開、普及に努めた。具体的には、本校 HP 掲載、Genko 通信(本校広報誌)、プロジェクトマップ等にて、本事業のイベント、授業や生徒の様子など可能な限り詳細かつ多頻度にわたり公開した。また、株式会社ソフィアと中学校向け PR チラシ「(仮称)マイスター・ハイスクール通信」を制作し、本校で取り組んでいるバイオディーゼルやカンパニー制について、生徒の活動写真を交えて記事にした。

さらに、彦根商工会議所通信「不易流行」の令和3年年10月1日号ならびに令和4年年3月1日号にマイスター・ハイスクール事業を特集記事として、本事業の概要や今年度の進捗状況、CEO、産業実務家教員へのインタビューなどが掲載され、彦根商工会議所会員のみならず滋賀県彦根市の公共機関窓口にも広く配布され、本事業の公開・普及する貴重な媒体となった。

#### コ 令和3年度中間成果報告会(文部科学省主催)

令和3年度中間成果報告会が令和4年1月に開催され、令和3年度における取組内容、成果、課題、令和4年度の事業計画内容について報告・発表を行った。指定校等間の協議・情報交換、講評等を通じて、今後の事業展開に資する内容となった。

#### サ 各種委員会の開催

##### (ア) 運営委員会

令和3年7月及び令和4年3月に運営委員会を開催し、マイスター・ハイスクール事業の研究計画・研究内容の妥当性や方向性についての協議、実施にあたっての指導・助言、各事業の評価及び研究全体の評価とその妥当性等について検討した。

##### (イ) 事業推進委員会

令和3年7月及び令和4年1月に事業推進委員会を開催し、マイスター・ハイスクール事業全体の流れと各事業の関連性についての指導・助言、事業ごとの評価及び研究全体の評価を行った。

## 1.1 目標の進捗状況、成果、評価

### ア 成果

令和3年度の成果は以下の通りである。

(ア) 3年計画の初年度として、次年度以降の土台が構築できた。

- ① CEOを推進役として産業界（彦根商工会議所）、彦根市、近隣大学、業界団体との協働ネットワークを構築できた。
- ② CEOを中心に産業界、彦根市との連携により、企業見学先との調整、インターンシップ候補企業への働きかけ、講師候補の紹介等をしていただける枠組みができた。
- ③ 産業実務家教員をリーダーとして令和4年度の学校設定科目「ブラッシュアップ実習」、「ブラッシュアップ英語」の制度設計ができた。

(イ) 自主参加イベントに1年生の内、1割強の生徒が積極的に参加し、次年度以降のリーダーとして活躍が期待できる。

(ウ) 持続可能な社会を考えるきっかけとして、社会課題の現状について学び、生徒各自が当事者として将来のあるべき社会について興味を持つことができた。

(エ) ものづくりの歴史、彦根地場産業や最先端技術のさわりについて学び、生徒は次年度以降のインターンシップや就職活動のイメージをつかむことができた。

## 1.2 次年度以降の課題及び改善点

ア 産業界（企業）からのさらなる協力が不可欠なことから、彦根商工会議所のネットワークを通じて会員企業への呼びかけを強化する。

イ 各教科において新たなプログラムを実施するにあたり講師探しが難航している。教員や彦根商工会議所、彦根市、近隣大学等のネットワークをフル活用し進める。

ウ 近隣大学との連携において今年度はスポット的イベントで終わっており、体系的流れになっていないので、今後の連携のありかたについて双方で協議を進める。